

品質向上へ稲作研修

三重・JA伊勢 水管理、防除など

【三重・伊勢】JA伊勢は26日までの12日間、管内45カ所で水稲現地研修会を展開している。生育期の水管理や農薬散布、追肥のタ

イミングなどを確認し、品質の向上につなげるのが狙いだ。2日には、南伊勢町の4カ所で研修会を開いた。JAと伊勢志摩



地域農業改良普及センターの担当者が、田植え後の管理や今後の気

象概要を説明。

参加者からの質問に答えるJA職員ら

斑点米カメムシ類などの害虫対策では、出穂前の水田周辺の草刈りの重要性を強調した。すみかをなくして防除をすることで、安定した収量の確保を目指す。また、いもち病の予防や早期発見を呼びかけた。

JAの担当者は「水管理や防除、高温対策などについて確認し、適切な管理方法をすることで、米の品質の向上と収量の増大を目指す」と話す。